

## 動植物の生態系を歪め、自然破壊や水脈を分断するリニア中央新幹線

国土交通省が JR 東海の不充分な環境影響評価に基づき 2014 年に認可した工事が 1 都 6 県で少しずつ進行している。しかし1 都 6 県の住民で組織するリニア沿線市民ネットワークが原告となり、工事認可の取り消しを求める裁判も行われている。

リニア中央新幹線の品川駅、名古屋駅新駅工事を受注した大手ゼネコン4社の談合疑惑が発覚し、東京都は大成建設と鹿島の幹部逮捕を受けて2つのゼネコンを2か月から最長で1年半の受注指名停止処分を行った。一方でJR東海は、大手ゼネコンが受注した工事はそのまま引き続き任せるとして、工事を強引に進める姿勢を崩さない。

#### そもそもリニア中央新幹線とは?

- ▶ JR 東海による単独事業
- ▶ 東京—名古屋間を40分で結ぶ新しい新幹線
- ▶ 2014年着工、2027年開業予定
- ▶ 建設費5兆5千億円+3兆円(財政投融資による)。
- ▶ 2038年工事を再開し、大阪まで延伸
- ▶ 東京—大阪間67分
- ▶ 2045年開業
- ▶ 建設費3兆6千億円
- ▶ 在来線の回転モーターではなく、超電導磁石を使ったリニアモーターが特徴
- ▶ そのために多くの問題が発生している

なぜリニアなのか、全く理由が分からない

#### 欠点の多いリニアが何故採用されたのか

リニアモーターは、磁石のN極とS極から生じる反発と誘引の力を利用して、浮上力、 推進力を引き出すもの。リニア中央新幹線の場合は、電気抵抗をゼロにする絶対零度に近 い極低温で働く超電導磁石を用いる。高速走行のために膨大なエネルギーを使い、強力な 電磁波を発生させるため、さまざまなマイナス面が生じる。

鉄道審議会の答申は「新幹線は安全性、信頼性、省エネ性、速達性、ネットワーク性、 定時性、建設費用等の点ではすぐれているが、リニアの方が高速性の点で優れているので リニアの方が適当である」と述べ、高速性以外のすべてで新幹線の方が優れているのに、 速いからリニアの方が良いという意味不明ともいえる答申でリニアが許可された。

# ここが問題!!リニア中央新幹線

## (1)リニアは未完成の技術で膨大なエネルギーを消費

リニアはヘリウムを利用して、-269℃の中で超電導状態を作り出すが、この状態を保てなくなるクエンチ現象が実験線でも起きていて、事故の発生が懸念される。またヘリウムは今後生産量が少なると考えられている。

### ②リニアの安全性と事故時のリスク

時速500kmで走るリニアは、クエンチのほか、大地震などによる事故が発生したら運転手のいないリニアは乗務員頼み。遠隔操作のリニアでは事故の原因と状況の把握ができるのか。

### ③「絶対ペイしない」リニアの赤字は税金で補填?

2013年9月に、山田佳臣JR東海社長(当時)が「リニアは絶対ペイしない」と公言。日本の人 口減少およびあり得ない需要の増加見込みではペイするはずがない。JR東海が赤字転落した時、国庫 から税金で手当てする可能性が指摘されている。

### 4リニアによる南アルプスの破壊と地下水の枯渇

リニアは86%がトンネルで南アルプスを貫通。トンネルを掘れば、地下水に影響が生じ、枯渇や異常出水が発生する。現に山梨の実験線では、上野原市や笛吹市で水枯れが生じて沢が全く枯れ、動植物の生態系に大きな影響が出ている。静岡市北部の大井川の水量が毎秒2トン消失と公表されており、下流域の生活や産業に重大な影響を与える。

### ⑤電磁波(磁界)の乗客への健康影響は?

リニアは磁力の吸引と反発の繰り返す力によって走行するため、強い磁界が車輛の周囲に発生。車両にシールドがほどこされ、ある程度低減されると思われるが、JR東海は正確な数値を明確にしていないため健康被害に不安がある。

## ⑥5680万m3の残土が惹き起こす2次公害

残土処理によって沢や谷が埋められれば生態系に悪影響が出る。北品川4丁目の立て坑から排出される掘削度は200万m<sup>3</sup> 排出先はまだ説明されていない。

## ⑦美しい自然景観と貴重な歴史景観に決定的なダメージ

山梨県では南に富士山、西に南アルプス、北に八ヶ岳を望む山岳景観の名勝地ですが、甲府盆地からの展望がコンクリート構造物とそこにかぶせられるフードで決定的なダメージを受ける。

## 8大深度トンネルの存在で地価は下落する

リニアルートの都市部55km(東京都・川崎市の35km、春日井市・名古屋市の20km)は 地下40m以深の大深度トンネル。地上権より事業者の使用権が優先する大深度法。地権者の了 解を取らずに工事がおこなわれ、補償も必要なしとされている。

## 9 杜撰なアセスのまま着工して大丈夫ですか?

総延長286kmのアセスがわずか約3年で終了している。多くは文献調査で実地調査は行われず、「大きな影響はない」「影響は回避または低減できる」の文言が羅列されている。「改善を図るものとする」としながら、どう改善を図るのか明示されていない。

# こんなにたくさんの問題、疑問があるリニアにあなたは賛成しますか